

言 談

土木學會誌 第十六卷第二號 昭和五年二月

堂島川可動堰に就て

(第十五卷第十號所載)

會 員 田 村 與 吉

私は土木學會誌昭和4年10月號所載の島工學士の堂島川可動堰に就ての御講演記事を拜讀した時に、あゝ愈々完成されたか、大阪市は流石によい施設を實施された。枝川淨化の効果はどうなつたかと言つたやうな一つの期待から非常な興味を以て讀了した、大正11年頃と思ふが大阪新聞に大阪市會に於て枝川の淨化の必要が論議された記事があつた、そして間もなく堂島川を堰止め、比較的綺麗な淨水を市内枝川に配給し汚水を稀薄にし且之れにより河川を洗滌し枝川の河狀を清潔に保持し大阪市をして水の都、よい水の都たらしめんと企劃は出來たとの報道を聞いた、其の後二度計り僚友の大阪市に出張するを機會に其の成行を聞いて貰ふたが、初回は設計完了し實施の準備中とのことであり、第二回目には堂島川可動堰が工事中であつたとのことで其の計畫の大要は聞くことを得たが、何物か猶ほ自分に理解出來ずに居つたので何時か大阪に行つて親しく聞いて見たい、見て見たいと心算かに其機を待つて居つたが遂ひ其の機を失し又自分としても少しく其の欲望が忘れかゝつて居つた所に其の事業を管理されて居らるゝ島さんの要領を盡された講演記事があつたので會誌を受取り直ぐ讀んで疑問に思ふて居つた大部分が能く理解し得た、併し御講演は「堂島川可動堰に就いて」であつて大阪市内枝川淨化施設の計畫、實施の全部でない、従つて私の理解出來ずに殘つて居る今一つの問題を此の機會に御尋ねして宜いかどうかとも考へらるゝが若し御計畫の當時の御調査があつたならば下のことを御手數でも御示教を得たい。

第一 計畫實施前大阪市内枝川汚染の程度如何、若し御調べあらば各河川別に

第二 堂島川の東横堀川分岐點に於ける水質如何

第三 計畫實施により是を如何なる程度迄改良さるゝ御見込みなりしや

第四 各河川流末に於ける施設前後の水質比較表あらばお示しありたい

第五 實施前後に於ける木津川の水質如何

私は都市特に大都市に於ける「放流下水」の程度を決定し置くことは河川の汚染を防止する上に於て又下水改良を實施する上に於て甚だ必要なことと思ふて居るが先年歐米先進國を垣のぞきした際も各都市に於て種々尋ねて見たが英國でも、米國でも、標準放流下水の質、程

度を一定したものあるを聞かなかつたが、大都市になると改良下水完成後と雖ども場合によりては下水管に取り入れられない工場の捨水、雨季に於ける下水、上水の放流、其の他種々の地帯を通過した地表水の注入から河川の汚損さるゝものが多い、特に改良下水の實施なく凡ての家庭、工場、地表水の終末を河川になしつゝある過渡期に於ける都市に於ては河川の汚染甚だしく最早や魚族の生存に堪へぬのみか其の色彩、其の臭氣共に風致上、衛生上看過を許さぬものがある、居住者側から河水淨化の必要論も従つて呼ばるゝが如何なる程度の汚水を如何なる程度迄に稀薄にし又化學的に機械的に取扱ふを適當とするや、1927年12月發刊のムニシパル・ニュース掲載フランク・エー・ビー氏所論「河川汚染の防止」などにも種々論述はして居るやうだが下水の管理を研究すると同時に「標準放流下水」の程度を定むることは是又甚だ必要なことゝ信ずるものである、大阪市として何等か是等の問題につき御調べありましたら同時に御示教を得ば幸甚である。(4. 12. 11. 稿)